

項目/品名	BT-S	BT-L
外観		
処理能力	1日最大20回(250cc/回)	1日最大40回(250cc/回)
処理方式	アシドロ®コンポスト分解方式	
設置場所	小屋の中など、雨風の直接当たらない、床が水平で硬い場所 (土や芝生の上に設置しないこと)	
使用温度範囲	処理槽内の基材(汚物)が凍結しない温度(5℃~40℃を推奨)	
本体重量	約48kg(基材含まず)	約85kg(基材含まず)
本体電源	交流100V 50/60Hz	
消費電力	最大380W	最大720W
本体寸法	幅640 奥行485 高さ515mm <a href="#">外形図はこちら</a>	幅670 奥行800 高さ755mm <a href="#">外形図はこちら</a>



# バイオトイレ

汲み取り  
不要

臭いが  
少ない

洗浄水  
不要

アシドロ®コンポスト分解方式採用

バイオトイレ用尿尿処理機

仮設トイレ、公園・山小屋、車載用などに！



BT-S型

バイオクリーンは以下の皆様のご指導・ご支援を受け、日立市産学官交流グループ 生ごみ処理研究会の活動から生まれました。

- 茨城県、日立市、日立地区産業支援センター
- 東北大学 理学博士 西野 徳三 名誉教授
  - 東北大学大学院 工学研究科バイオ工学専攻 農学博士 中山 亨 教授
  - 京都学園大学 農学博士 金川 貴博 先生
  - 神奈川工科大学 技術士・工学博士 高沢 孝哉 名誉教授
  - 神奈川工科大学 工学部機械工学科 工学博士 木村 茂雄 教授
  - 茨城大学 工学部 各研究室

## 株式会社バイオクリーン

〒316-0022 茨城県日立市大沼町1丁目28番10号  
TEL. 0294-34-5371  
FAX. 0294-38-1215

製造：スターエンジニアリング株式会社  
TEL. 0294-38-1212

●お問い合わせ先





1 汲み取り  
不要

アシドロ®コンポスト分解方式により、汚物は水や炭酸ガスに分解されます。従来の仮設トイレでは不可欠だった、汚水の汲み取りや浄化の作業にかかるメンテナンスコストの削減に貢献します。

2 臭いが  
少ない

アシドロ®コンポスト分解方式による汚物の分解は、酸性下で進行するのが特徴です。このため、臭いの原因の一つであるアンモニアの揮散が抑えられ、非水洗式トイレ特有の臭気を低減します。

3 洗浄水  
不要

洗浄水なしで使用できるため、配管工事等を行わなくても設置することができます。  
 (※)  
 ※:専用脱臭装置(別売品)をご使用になる場合は、定期的な給水を行うと効果的に脱臭しますので、近くに水道があると便利です。

4 分解力が  
長持ち

アシドロ®コンポスト分解方式は分解効果が長持ちしますので、長期間、基材の交換が不要になります。1年以上使用を継続できる実績があります。

当社の「バイオトイレ用尿尿処理機」は、尿尿を効率よく分解・減容する優れた性能を持つアシドロ®コンポスト分解方式(特許取得)を採用。基材内の分解微生物を培養し、働きを活発にして、尿尿を短時間で分解処理する装置です。



バイオトイレ用尿尿処理機による尿尿分解の模式図



アシドロ®基材

生ごみ処理機『バイオクリーン』およびバイオトイレ用尿尿処理機に採用されている「アシドロ®コンポスト分解方式」は、当社と東北大学大学院工学研究科 バイオ工学専攻の西野徳三教授(現名誉教授)、中山 亨教授との共同開発から生まれた、生ごみの画期的な堆肥化(コンポスト化)方式です。

基材内に生息する微生物叢(そう)は、高い分解能力が長期間持続します。この基材と、加熱攪拌機構を組み合わせることで、生ごみや尿尿を効率よく分解します。分解後のコンポストは、良質の肥料としての利用が可能です。

※アシドロはスターエンジニアリング株式会社の登録商標です。

バイオトイレ用尿尿処理機 設置例



助川山市民の森(茨城県・日立市)  
採用機種: BT-L



「森のトイレ」外観



個室内に設置されたバイオトイレ

「助川山市民の森」の駐車場に、バイオトイレ用尿尿処理機BT-Lが2台設置され、公園を訪れた方々に利用されています。助川山市民の森は、平成3年に発生した林野火災の跡地を日立市が整備し、平成10年に開園した自然公園です。現在では豊かな森林が再生し、市民の憩いの場となっています。



ノロッコ号(運行:JR北海道)  
採用機種:鉄道車両用 特別仕様品



流氷ノロッコ号



車両の床下に搭載された  
バイオ式尿尿処理槽。  
※処理槽表面には風雪による  
氷が付着しています。

JR北海道が行った国内初の鉄道車両用バイオトイレ運用試験で、バイオトイレ1台が、「流氷ノロッコ号」と「くしろ湿原ノロッコ号」で使用される車両に搭載されました。真冬に運行される「流氷ノロッコ号」では、バイオ式尿尿処理槽は車両の床下で直接風雪に曝され、処理槽表面が凍結するほどの厳しい環境条件においても順調に稼働し、無事に運用試験を乗り越えました。